

# 群馬県館林市・東京都福生市で発生が確認された サクラ・ウメ等を加害する外来種クビアカツヤカミキリ

日本大学 森林動物学研究室 <sup>きりやま さとし いわた りゅうたろう</sup> 桐山 哲・岩田 隆太郎

森林総合研究所 研究企画科企画室 <sup>か が や えつ こ</sup> 加賀谷 悦子

## はじめに

クビアカツヤカミキリ (クロジャコウカミキリ) *Aromia bungii* は中国においてモモ、アンズ、スモモ (呂, 1995; 張ら, 2000; 余・高, 2006; 馬ら, 2007; 王ら, 2007) に、侵入先のドイツ・イタリアにおいてスモモ、アンズ、サクラに穿孔被害を与え (BURMEISTER et al., 2012; GARONNA et al., 2013), 重要害虫として警戒されている。

日本では2012年に愛知県海部地域 (愛知県, 2013) (海部郡), 2013年に埼玉県草加市 (中村, 2013; 加納ら, 2014) より本種の成虫羽化脱出が見られ, 被害樹の根元付近に幼虫のフラスが多数発見された。被害を受けたウメ, ソメイヨシノの枯死が確認されている。

これらに加え2015年6月以降, 群馬県館林市・東京都福生市・大阪府大阪狭山市・徳島県板野町での本種の発生情報がウェブ上で報じられている。大阪府大阪狭山市での発生例については, 成虫およびサクラ被害木の発見 (杉本, 2015), 徳島県板野町・鳴門市での発生例については, 複数の果樹園での広範囲の被害, 成虫およびモモ・ウメ・スモモ被害木の発見 (徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所, 私信) がそれぞれ報告されている。今後本種の新たな発生地に関する報告が続くものと思われる。筆者らは今回, 群馬県館林市および東京都福生市での新たな発生地における被害状況の調査を行った。

本文に先立ち, 本報告・調査にご協力いただいた埼玉県生態系保護協会の加納正行氏, (株)建設技術研究所の野中俊文氏, 館林市役所, 福生市役所, 横浜植物防疫所の各位に感謝の意を表す。

## I クビアカツヤカミキリについて

### 1 形態と生態

クビアカツヤカミキリはカミキリムシ科 Cerambycidae-カミキリ亜科 Cerambycinae-アオカミキリ族 Calli-chromatini-ジャコウカミキリ属 *Aromia* に属し, 主にアジア大陸の中国, 朝鮮半島, ロシア極東部等に自然分布している。カミキリムシとしては大型種である本種は, 体躯と付属肢がおおむね艶のある黒色で, 前胸背板が赤色と黒色の二型が見られる (口絵①) が, 日本における発生個体群はいずれも前胸背板が赤色のタイプに属する。幼虫発生様式は一次性, 2~3年1化性で, モモ, ウメ, サクラ等のバラ科が主要な宿主樹ながら, ヤナギ類, イチイガシ, カシノキ, クワ等にも発生するとされる (GRESSITT, 1942; 胡ら, 2007)。

### 2 国内における警戒

2015年3月26日に農林水産省, 環境省から「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト (生態系被害防止外来種リスト)」が作成され, クビアカツヤカミキリもこのリストに加えられた。その選定理由は, 「IV (知見が十分でないものの, 近縁種と同様の生態を持つ種が明らかに侵略的であるとの情報があるもの, または, 近年の国内への侵入や分布の拡大が注目されている等の理由により, 知見の集積が必要とされているもの。)', 定着段階は「定着初期/分布限定」, 対策優先度の要件は「未評価」となっており, まだ情報不足が否めない状況である。本種の日本国内における分布情報の迅速な収集が急務と考えられる。

分布が拡大することでサクラだけでなく, モモやウメ等の農作物への加害も懸念される。

## II 群馬県および東京都での発生

### 1 調査方法

2015年7月19日, 26日, 31日に群馬県館林市, 7月25日に東京都福生市にて, 日本国内で確認されている被害樹種のソメイヨシノを主としたサクラ類およびウメの被害状況 (脱出孔, フラス排出), 並びに成虫の確認・捕獲を行った。本種のサクラに対する加害は加納ら

Newly Discovered Populations of *Aromia bungii* (Faldernann), an Invasive Cerambycid Infesting Cherry and Japanese Apricot Trees in Tatebayashi, Gunma Pref., and Fussa, Tokyo Pref. By Satoshi KIRIYAMA, Ryūtarō IWATA and Etsuko KAGAYA

(キーワード: クビアカツヤカミキリ, クロジャコウカミキリ, ソメイヨシノ, ウメ, 生態系被害防止外来種リスト)

(2014) や加賀谷 (2015) で述べられているように、赤褐色のフラスを排出することで、同樹種でのコスカシバなどの他種の加害と区別できる。特に調査を行った7月は挽肉状に固まったフラスを大量に排出するのが見られた。

## 2 群馬県館林市の調査結果

2地点で成虫の捕獲、10地点以上でサクラに対する加害、1地点でウメに対する加害を確認した(表-1)。今回確認した分布域は約12km<sup>2</sup>(館林市の5分の1の面積に相当する)(図-1)で、館林市中央から南西部にかけて広く分布が広がっていることが判明した。

城町：公園に植栽されたソメイヨシノ2本からフラスの排出を確認した。1本は根元から、もう1本は2m以上の地上高の枝からフラスが地面に落下しているのが見られた。公園内の看板によると7月8日・13日に薬剤の散布が市の緑のまち推進課により行われた模様(館林市によるとアメリカシロヒトリなどの防除を目的として)で、成虫が確認されなかったのはその影響もあると思われる。公園内にはサクラが数多くあり、まだ未発見の被害木も存在すると思われる。

堀工町A地点：大径木のサクラやソメイヨシノ・シダレザクラが植栽されている。胸高直径が1m以上ある大径樹には枝切り跡の薬剤塗布が見られ、塗布剤は周辺樹皮も広く覆っていたが、根元や枝からのフラスの排

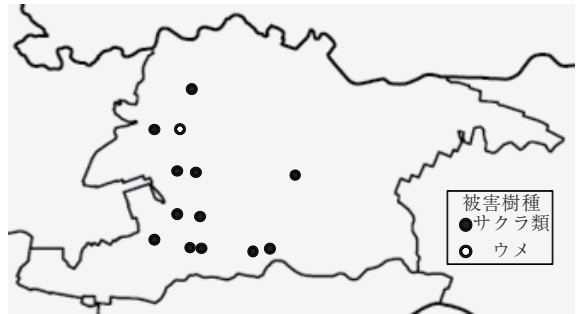


図-1 確認された館林市におけるクビアカツヤカミキリの分布域

出と脱出孔が点在しているのが見られた。7月19日12:00ころ一本のサクラの樹皮上でマウントしている本種成虫つがいを発見、これを捕獲した。同樹を見ると数頭が高さ2mほどの箇所に見られ、合計5頭(雄2頭雌3頭)が捕獲された。その後26日に雄1頭、31日に雄1頭を捕獲。シダレザクラには被害は確認されなかった。

青柳町A地点：胸高直径が1m以上ある大径木が著しい被害を受けており(口絵②)、大量のフラスが一周するように根元に堆積していた。枝の一部は枯死しており、今回の調査中最も被害が著しい樹であった。計7頭の成虫を捕獲した。

表-1 2015年群馬県館林市における被害状況と捕獲個体数

地点	被害樹種	被害樹本数	被害具合	成虫捕獲個体数	備考
城町	ソメイヨシノ	2	フラス排出	—	
堀工町A	サクラ・ソメイヨシノ	7	フラス排出・脱出孔・一部枯死	7	
堀工町B	ソメイヨシノ	1	フラス排出	—	
青柳町A	サクラ	1	フラス排出・脱出孔・一部枯死	7	
青柳町B	ソメイヨシノ	3	フラス排出	—	飛翔中の成虫確認
下三林町	ソメイヨシノ	3	フラス排出	—	
近藤町A	ソメイヨシノ	1	フラス排出	—	
近藤町B	ソメイヨシノ	2	フラス排出	—	
苗木町	ソメイヨシノ	10以上	フラス排出・脱出孔・一部枯死	—	
富士原町	ソメイヨシノ	20以上	フラス排出	—	市が成虫採取
松沼町	サクラ	5	フラス排出	—	
西高根町	サクラ	1	フラス排出	—	
北成島町	ウメ	5	フラス排出	—	

苗木町：駐車場回りに多くのサクラが植栽されている。被害樹が多く、フラス排出と数本の枯死木が見られた。脱出孔も多く点在し、被害の著しい樹ではフラスが大量に排出され根元周辺に堆積していた。7月31日に病虫害駆除の薬剤が散布されていた。本数、被害の程度がともに大きく、ここ数年間被害が続いていると思われた。

富士原町：29本のサクラ並木のうち23本からフラスが排出されていた。来年・再来年には大量に成虫が脱出する可能性がある。

北成島町：今回の調査でウメに加害しているのが唯一確認された（口絵③）。このウメは土木会社の敷地の道路脇に複数本植栽されており、5本のウメ根元からフラスが排出され、部分的に枯死している樹も確認された。

### 3 東京都福生市の調査結果

1 地点で成虫の捕獲とサクラに対する加害を確認した。合計で11本のサクラからフラスの排出を確認し（口絵④）、そのうちの3本からは脱出孔も確認され、一部腐朽が進行する樹も見られた。13時15分に飛翔中の本種雄成虫を確認、着地したところを捕獲した。多摩川沿いのサクラを約10kmにわたって調査したが、他の地点からはフラスの排出や成虫は確認されなかった。

## III 侵入時期・経路の推定

日本における発生は、愛知県海部地域が2012年ころ（愛知県、2013）、埼玉県草加市が2013年ころ（加納ら、2014）であるが、館林市への本種の侵入時期は、確認できた分布域の広さと堀工町や青柳町の被害木の状況から見て、前の2県とほぼ同時期かそれ以前と考えられる。東京都福生市については今回の調査だけでは即断できないが、侵入初期段階と考えられる。

日本国内への侵入経路については、加納ら（2014）が述べているように、中国産の木材製工業用パレットなどの梱包材の運び込みが考えられる。今回の調査で複数の都府県での発生が確認され、日本国内での分布拡大には物流に乗った拡散があったものと推察される。被害樹が日本国内ではサクラが主となっていることから、伐採された被害樹の輸送による分布拡張は考えにくい。

## おわりに

日本国内における本種は、加賀谷（2015）が述べたような分布拡大の段階からさらに進んで同時多発的な分布拡大の段階に入ったものと思われる。

今回の調査で新たに発見された侵入地については、今後詳細な被害状況の調査および防除に向けた取り組みが行わなければならない。

サクラは被害の確認されている草加市・館林市のみならず国全体にとって地域の生活や文化に強く結びつき、また観光資源としての経済的価値もある樹種であり、守られ愛されてきた。そのため、サクラの被害樹の伐採に対して、なかなか近隣住民には賛同を得られない側面があるが、伐採は多くのサクラを守るためにはやむをえない処理であることにご理解いただければと思う。

今回の群馬県での調査で栽培圃場ではないがウメへの加害も愛知県・徳島県での報告（愛知県・2013；徳島県・私信）と同様に確認され、日本でも中国と同様にウメの重要害虫となる可能性が高い。東京都福生市もウメの産地であり、ウメへの侵入が懸念される。もはや本種は市町村レベルから、県レベル国レベルで情報の共有および集中的な駆除を行わなければならない状況にあるといえる。「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」においても「定着初期/分布限定」から「分布拡大型」に、「その他の総合対策外来種」から「重点対策外来種」に評価を進める必要があると思われる。また、「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」への掲載やこれまでの発見や防除の報告等により、本種の知名度・注目度が上昇し、新しい侵入地の報告が今後続く可能性も考えられる。またこれらの情報を整理し、全国的な分布調査を行う仕組みが必要であり、早急な対策が望まれる。もし、本種または発生が怪しまれる被害木などを発見した場合、市町村や都道府県の行政並びに筆者らに連絡いただければ幸いである。

## 引用文献

- 1) 愛知県 (2013):平成25年度病虫害発生予察特殊報 (2):1~2.
- 2) BURMEISTER, E.-G. et al. (2012): Nachrichtenblatt der Bayerischen Entomologen 61 (1/2):29~31.
- 3) GARONNA, A.P. et al. (2013): Informatore Agrario 69:60~62.
- 4) GRESSITT, J.L. (1942): Special Publication, Lingnan Natural History Survey and Museum (1):1~60.
- 5) 胡 長効ら (2007): 農業と技術 27:63~67.
- 6) 加賀谷悦子 (2015): 樹木医学研究 19:37~40.
- 7) 加納正行ら (2014): 森林防疫 63:101~105.
- 8) 呂 印譜 (1995): 河南農業科学 1995 (7):25~27.
- 9) 馬 文会ら (2007): 華北農學報 22:247~249.
- 10) 中村裕之 (2013): 月刊むし (513):14~15.
- 11) 杉本周作 (2015): 同上 (535):50~51.
- 12) 徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所 (私信).
- 13) 王 景濤ら (2007): 北農業科学 11:41~43,79.
- 14) 余 桂萍・高 幫年 (2006): 中国森林病虫 24:15~16.
- 15) 張 旭ら (2000): 同上 19:9~11.